

火天

白川郷の合掌造りの家にはすべて囲炉裏があり、その上部には主要な梁から吊るされた木の板があつて、囲炉裏の火のすすで黒くなっています。火天と呼ばれるこの板は、伝統的に様々な用途で用いられました。その上に道具を保管したり、そこから食べ物を吊るして燻製を作ったりすることができます。しかし、火天の主な機能は、囲炉裏からの火花を、天井、壁、あるいはさらに悪いことに茅葺き屋根に達する前に消し、村全体を脅かす火災を防ぐことでした。火天はまた、家中に煙を放散させ、熱が逃げるのを防ぎ、真冬でも囲炉裏周辺を暖かく保ちました。